

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○未成年者飲酒禁止法

大正十一年三月三十日 (總理、内務、法律第二十號) (大臣副署)

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス  
 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知りタルトキハ之ヲ制止スヘシ  
 營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知りテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス  
 第二條 未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス  
 第四條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

#### 附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十一章 社會施設

### ○公益質屋法

昭和二年三月三十一日 (總理、内務、法律第三十五號) (藏大臣副署)

第一條 市町村又ハ公益法人ハ本法ニ依リ公益質屋ヲ經營スルコトヲ得  
 公益法人公益質屋ヲ經營スル場合ニ於テハ業務所ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ  
 第二條 本法ニ依ル公益質屋ニ非ザレバ其ノ名稱中ニ公益質屋タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ  
 第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ市町村又ハ公益法人ニ對シ公益質屋ノ設備ニ要スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助ス  
 第四條 貸付金額ハ一口ニ付十圓、一世帯ニ付五十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
 第五條 貸付利率ハ一月ニ付百分ノ一・二五ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル地方ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
 利子ノ計算ニ關スル期間ニ付テハ月ヲ以テ計算シ民法第四百十條乃至第四百十三條ノ規定ヲ適用ス但シ一月ニ滿チザル日數ガ十六日以上ナルトキハ之ヲ一月トシ其ノ十六日未滿ナルトキハ之ヲ半月トシテ計算ス  
 第六條 貸付金ニ對スル利子ニシテ一錢未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス  
 第七條 公益質屋ニ於テハ其ノ質契約ニ關シ元金及利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ質置主ヨリ金錢其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ズ

第四編 社會 第十一章 社會施設 公益質屋法

第八條 流質期限ハ質契約成立ノ日ヨリ四月未滿ノ期間内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得ズ四月未滿ノ期間内ニ於テ之ヲ定メタルトキハ其ノ期間ヲ四月トス  
 第九條 流質期限到來前ニ於テ質物ノ交換又ハ質物ノ一部ノ受戻ヲ爲シタルトキト雖モ利子ノ計算及流質期限ニ付テハ質契約ノ變更ナキモノト看做ス  
 第十條 質置主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一部辨濟ヲ爲スコトヲ得  
 第十一條 流質物ハ競爭入札ニ依リ之ヲ賣却スベシ  
 特別ノ事情アル場合ニ於ケル流質物ノ處分ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 流質物處分前ニ於テ質置主ガ元金、利子及流質期限經過後質契約ガ存續シタルトセバ支拂フコトヲ要スベキ利子ニ相當スル金額ヲ支拂ヒタルトキハ流質物ハ之ヲ返還スベシ  
 第十三條 流質物ノ賣却代金ヨリ元金及利子ニ相當スル金額並ニ命令ヲ以テ定ムル手数料ヲ控除シタル殘餘金ハ之ヲ質置主ニ交付スベシ  
 流質物ヲ一括シテ賣却シタル場合ニ於ケル各流質物ニ對スル元金ノ計算ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ交付スベキ殘餘金額ハ之ヲ質置主ニ通知スベシ  
 前項ノ通知ヲ發シタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ殘餘金ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ  
 第十五條 質屋取締法第二條乃至第八條、第十條乃至第十七條及第二十條ノ規定ハ公益質屋ニ之ヲ準用ス  
 質屋取締法第十二條ノ規定ハ第十二條ノ流質物ノ返還及第十三條第一項



ノ殘餘金ノ交付ニ之ヲ準用ス

第十六條 本法ニ違反スル質屋契約ニシテ質置主ニ不利ナルモノハ其ノ不利ナル部分ニ限り之ヲ爲サザルモノト看做ス

第十七條 公益法人ノ經營スル公益質屋ノ監督上必要アルトキハ地方長官ハ其ノ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第十八條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス  
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十九條 公益質屋ヲ經營スル公益法人ノ理事又ハ従業員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第二條乃至第四條、第五條第一項第二項、第六條、第七條第一項、第八條第一項、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十五條ノ規定ニ依リ準用スル質屋取締法第十五條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品若ハ帳簿ヲ毀損亡失シタルトキ

第二十條 本法中町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ市町村又ハ公益法人ノ經營スル公益質屋ハ本法ニ依ル公益質屋ト看做ス

市町村又ハ公益法人ノ經營スル公益質屋ニ於テ本法施行前ニ爲シタル質屋契約ハ本法ニ拘ラズ仍其ノ效力ヲ有ス

(昭和二年勅令第二百三十一號ヲ以テ昭和二年八月十日ヨリ施行)

(昭和九年十一月八日) (總理、拓務大臣副署)

勅令第三百二十一號 (昭和九年十一月八日) (總理、拓務大臣副署)  
公益質屋法ヲ修正スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

本令ハ昭和九年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

○公益質屋法施行規則

昭和二年七月十六日 內務省令第三十四號

第一條 公益質屋法第一條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

一 名稱

二 業務所ノ位置

三 業務所及其ノ附屬建物ノ規模、構造

四 業務開始ノ豫定年月日

五 事業方法

六 財産目錄

七 定款又ハ寄附行爲

第二條 市町村又ハ公益法人公益質屋ノ業務ヲ開始セントスルトキハ業務開始ノ日前三十日ヨリ迄ニ其ノ旨地方長官ニ届出ヅベシ

市町村前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ストキハ前條第一號乃至第五號ニ掲グル事項ヲ併セテ届出ヅベシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三條 市町村又ハ公益法人前條第一項ノ届出ヲ爲シタルトキハ直ニ名稱、業務所ノ位置及業務開始ノ年月日ヲ公示スベシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第四條 市町村又ハ公益法人公益質屋ノ業務ヲ廢止セントスルトキハ業務廢止ノ日前三十日ヨリ迄ニ其ノ旨地方長官ニ届出ヅベシ

第五條 質置主一部辨濟ヲ爲ス場合ニ於テハ先ヅ之ヲ元金ニ充當ス一部辨濟アリタル爲返還シ得ベキ質物ノ部分ヲ生ジタルトキハ之ヲ質置主ニ返還スベシ

第六條 公益質屋法第十一條第一項ノ規定ニ依リ流質物ヲ賣却セントスルトキハ競争入札ノ日前五日ヨリ迄ニ左ノ事項ヲ公告スベシ

一 入札ニ付スル物品ノ種類及員數

二 契約條項ヲ示ス場所

三 入札ノ場所及日時

四 入札保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ隨意契約ニ依リ流質物ヲ賣却スルコトヲ得

一 競争入札ニ付スルモ入札ナキトキ

二 競争入札二回ニ及ブモ入札價格ガ豫定價格ニ達セザルトキ

三 流質物ガ競争入札ニ付スルヲ適當トセザルトキ

四 競争入札ニ付スルヲ著シク不利ト認ムルトキ

第八條 流質物毀損變質其ノ他ノ事由ニ因リ賣却スルコトヲ得ザルニ至リタル場合ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第九條 公益質屋法第十三條第一項ノ手数料ハ流質物ノ賣却代金ノ百分ノ五トス

第四編 社會 第十一章 社會施設 公益質屋法施行規則



### ○公益質屋法第三條ノ規定ニ依ル國

#### 庫補助ノ件

昭和二年七月十六日（總理、內務、大  
勅令第二百三十二號）（藏大臣副署）

改正 昭和九年第三三三號

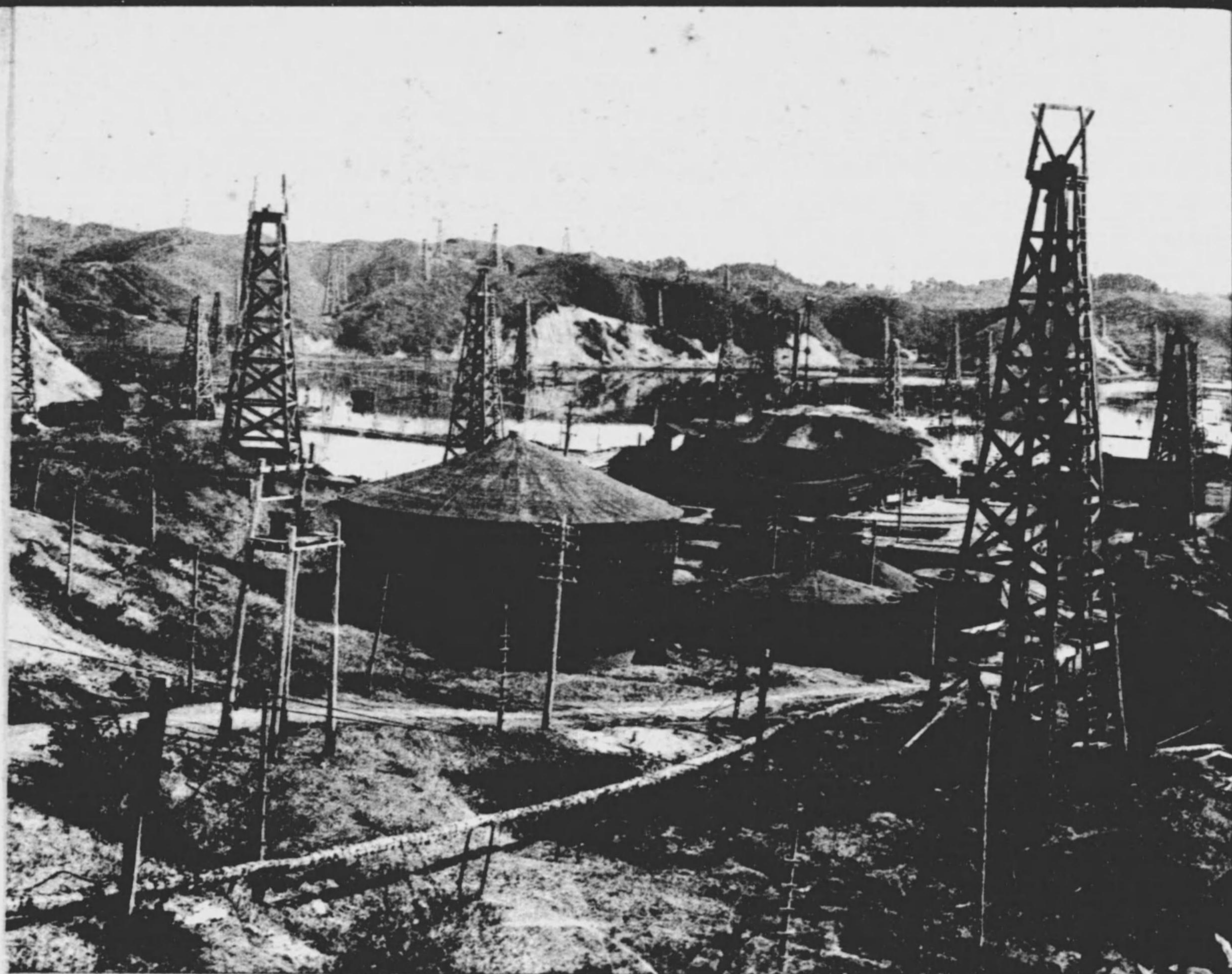
公益質屋法第三條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ公益質屋ノ創設費、改良費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ノ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ公益質屋ノ設備ニ關スル寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

前項ニ規定スル補助ヲ受ケントスル者ハ公益質屋ノ設備ニ關スル計畫ニ付內務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

本令中內務大臣トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官トス

#### 附則

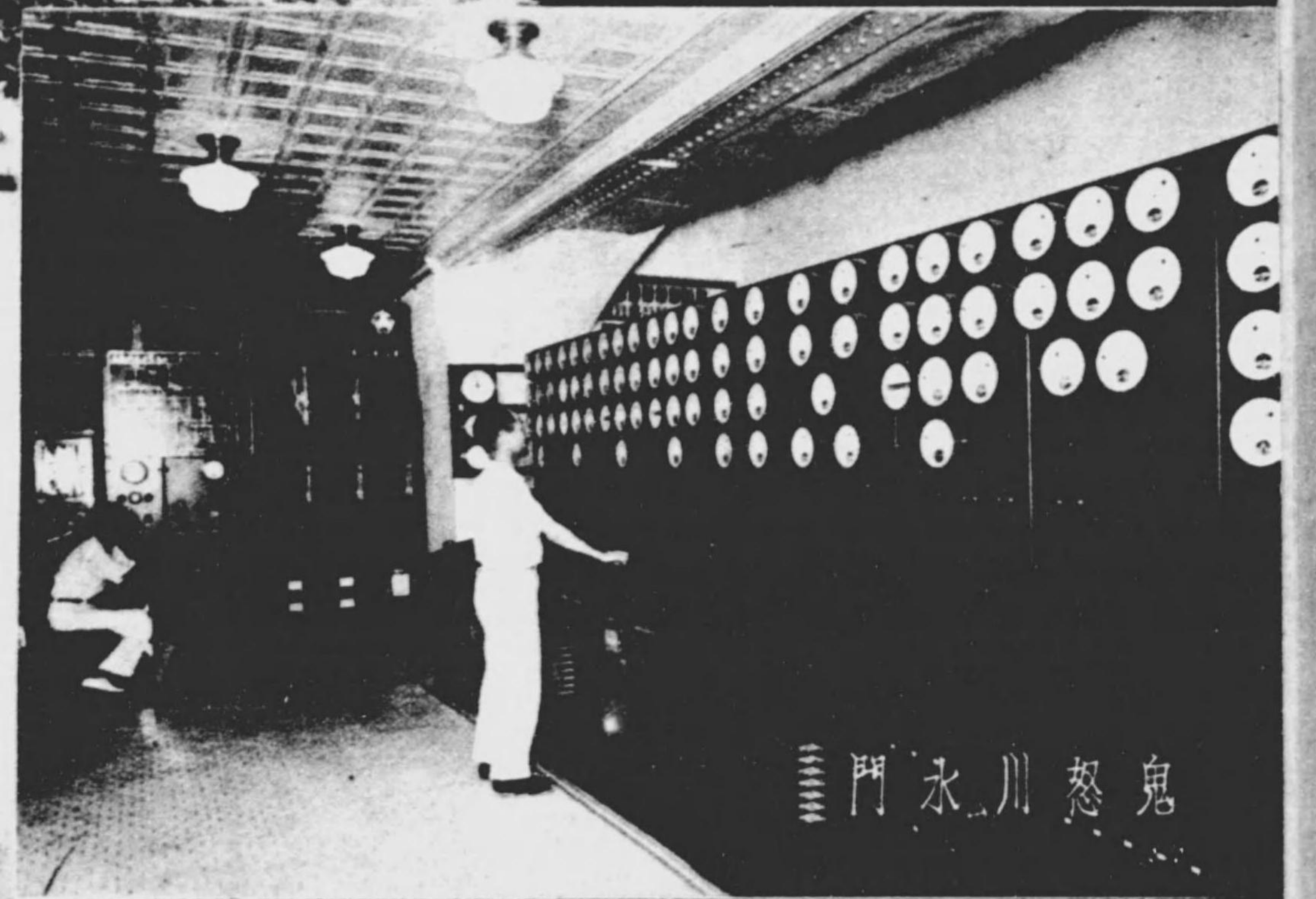
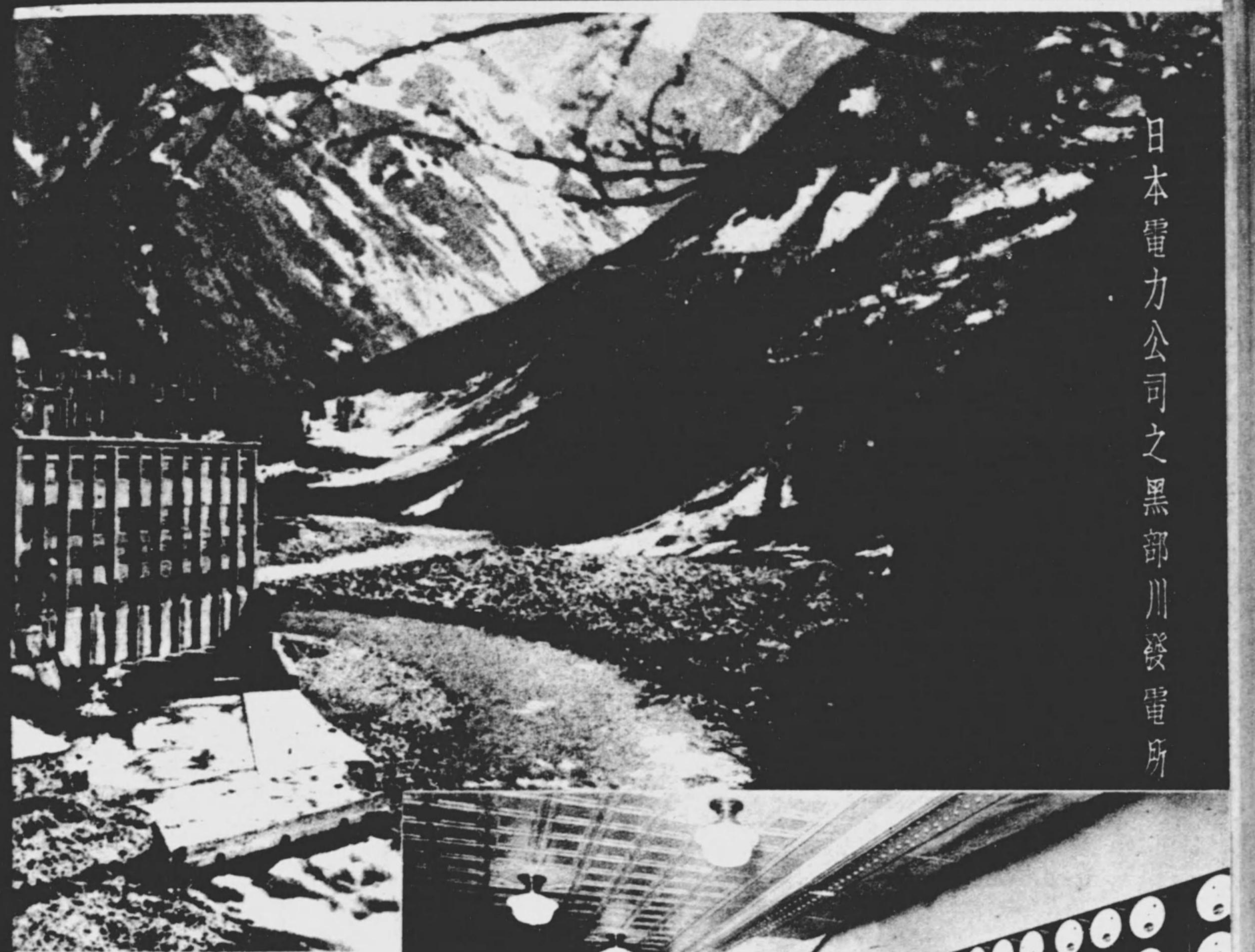
本令ハ昭和二年八月十日ヨリ之ヲ施行ス



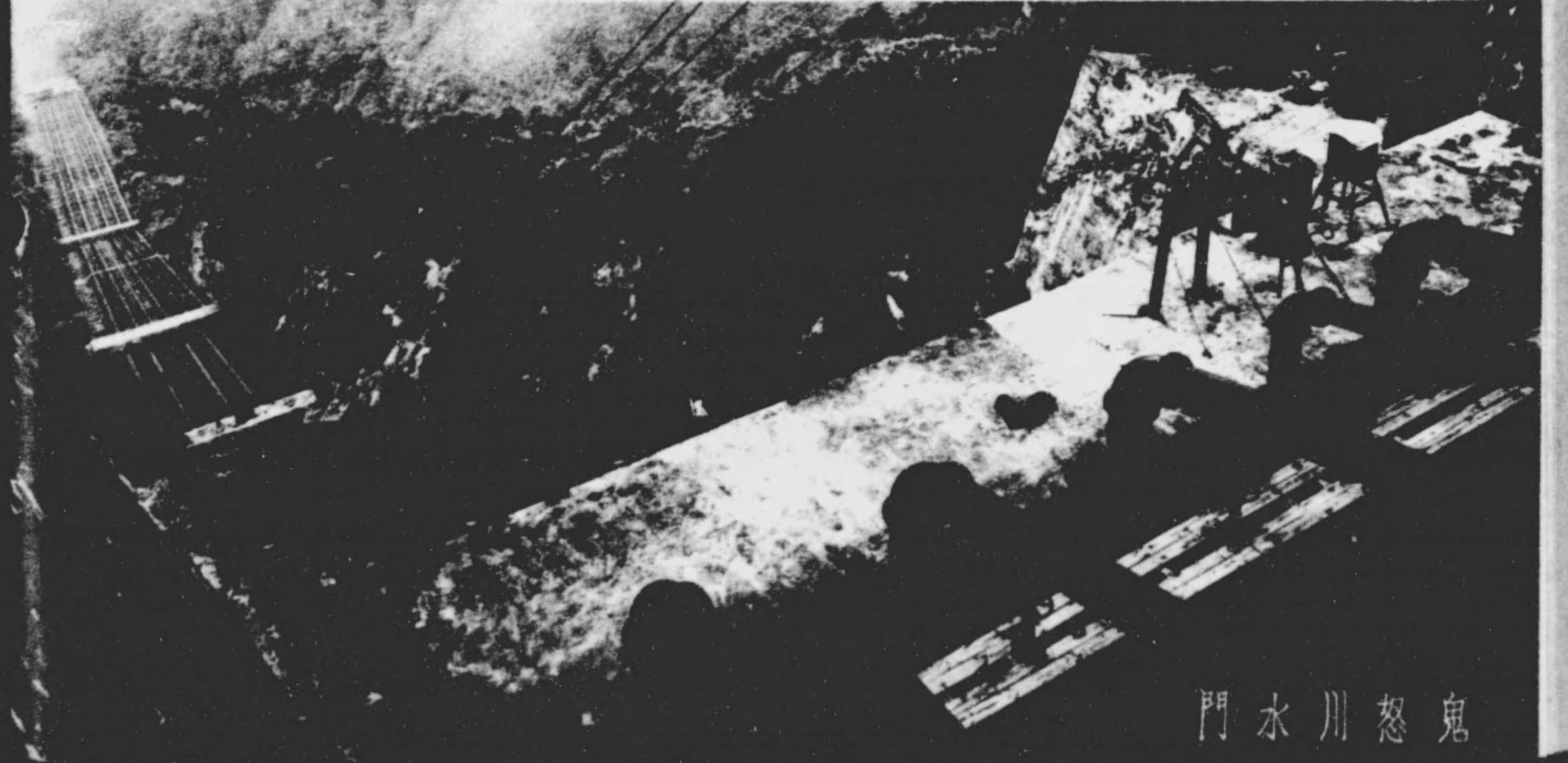
上 下 黑 川 油 田 全 景  
熔 鐵 爐



日本電力公司之黑部川發電所



鬼怒川水門



鬼怒川水門



昭和十三年六月九日印刷  
昭和十三年六月十三日發行

定價

一般編 金六拾圓  
外地編 金貳拾圓

版權  
所有

編纂者

遊佐重四郎

東京市日本橋區吳服橋三ノ五

發行者

下中彌三郎

東京市日本橋區吳服橋三ノ五

印刷者

山本守三

發行所  
發賣所

帝國法令協會

東京市日本橋區吳服橋三ノ五

株式會社

平凡社

東京市日本橋區吳服橋三ノ五  
電話日本橋三三  
一一五五  
五五五  
九八七  
番番番五



4410-4



